

庄内の風 63

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

地元の特産品をつかった 手作りお菓子が誕生!

庄内町の障害者多機能型施設「ひまわり園」が、地元の特産品を使った新たなお菓子を開発しました。

第1弾として4月から販売する商品は、庄内町産スペシャルコシヒカリの「米粉」や「青きなこ」、地元の醤油屋さんの「お醤油」や豆腐屋さんの「おから」など、地元の食の恵みを詰め込んで焼き上げたクッキーやかりんとうなど、どちらもサクサクした食感が自慢の自信作です。



施設で働いている人たちが地域で暮らしていくための収入を増やそうと、何度も試作を重ねて開発したお菓子には、作る喜びや美味しいといわれる喜び、社会参加や自立ができる喜びも込められています。「美味しい!安全!安心!」にこだわった手作りのお菓子です。(株)イグゼあまるめのホームページ「庄内なんでも屋」からもご購入できますので、ぜひお試しください。



問い合わせ 株式会社イグゼあまるめ ☎0234-42-3040 <http://www.exeamarume.co.jp>
(福)庄内町社会福祉協議会 障害者多機能型施設ひまわり園 ☎0234-42-0680 <http://himawari-en.net/>

図書館からの お知らせ

◇開館時間

・年中無休…午前10時から午後5時まで
*都合により休館になる場合があります。

◇貸出冊数 1人3冊まで

◇貸出期間 2週間まで



5月の移動図書館車運行予定

- ◇横山駅裏仮設住宅…5月1日(火)、15日(火)、29日(火) 午前10時から11時30分
 - ◇津山若者総合体育館仮設住宅…5月1日(火)、15日(火)、29日(火) 午後1時から2時30分
 - ◇南方仮設住宅…5月3日(木)、17日(木)、31日(木) 午前10時30分から正午
 - ◇歌津平成の森仮設住宅…5月9日(水)、23日(水) 午前10時から正午
 - ◇戸倉中仮設住宅…5月11日(金)、25日(金) 午前10時から11時30分
 - ◇自然の家仮設住宅…5月11日(金)、25日(金) 午後1時から2時30分
 - ◇入谷山の神平福祉仮設住宅…5月8日(火) 午前10時から11時
- ・南方仮設住宅と歌津平成の森仮設住宅の終了時間が4月より変更になっています。

5月から図書館の 場所が変わります

移動先

ベイサイドアリーナ
2階ロビー

生涯学習館建設のため、当分の間上記の場所で開館します。

なお、ご利用の際は外階段から中にお入りください。

問い合わせ

南三陸町図書館
☎46-2670

受講生募集

三原色画教室

少ない道具で、誰でも描けるキミ子方式。水彩絵の具で本物のように絵が描けるのが魅力です。

「キミ子方式」とは、三原色(赤・青・黄)と白・藍色だけで色を作り、描きははじめの一点を決め、その部分からとなり、となりへと描きすすめていく方式で、構図を決めてから輪郭を描き色を塗る今までの絵の描き方とまったく逆の方式となっています。

- ◇場所 歌津総合支所会議室
 - ◇日時 初回6月18日(月) 午後1時30分から3時30分、月1回コース
 - ◇講師 高橋弘美 先生
 - ◇申込締切日 5月31日(木)
- ※道具及び原材料費は実費負担となります。

問い合わせ・申し込み

歌津公民館(歌津総合支所内) ☎36-2111

町臨時保育士募集

町では、保育園に勤務する臨時保育士を募集します。

- ◇業務内容 名足保育園での保育業務補助
- ◇応募資格 保育士免許を有している方または保育業務に携わった経験を有している方
- ◇募集人員 1名
- ◇任用期間 6月1日から12月31日
- ◇勤務時間 1日7時間45分(週38時間45分以内)
- ◇賃金 有資格者 時給840円
無資格者 時給720円
- ◇応募方法 名足保育園に直接申し込みください。
- ◇応募締切 5月15日(火)

問い合わせ 名足保育園 ☎36-2320

南三陸町病院建設基本計画策定委員募集

町では、東日本大震災で壊滅的被害を受けた公立志津川病院の再建に向けた病院建設基本計画の策定にあたり、幅広く町民のみなさんの意見を反映させるため、南三陸町病院建設基本計画策定委員を募集します。

- ◇募集人数 3名
- ◇報酬等 謝金として1日につき7,400円(所得税の源泉徴収があります。)
- ◇応募方法 公立志津川病院総務課に備えつけの応募用紙に必要事項を記入し、公立志津川病院総務課に直接提出してください。
- ◇応募締切 5月18日(金)

問い合わせ 公立志津川病院総務課 ☎46-3664

今月の『観光ネット』『復興に向かって』はお休みします。

あれから一年。何度帰っても、未だ故郷に起こったことを信じられずにいます。

この一年、首都圏から震災支援にかかわる方々とのご縁を得て話をすることで、震災前は「気仙沼と石巻の間」というてもなかなかぴんと来てもうえなかった「南三陸」という名前を、東京にいなながら多く耳にするようになったのは本当に不思議な気持ちがあります。それ程、関心を持って南三陸に向かってくたさる方が多いということなのだ、と実感し



夢大使 リレー通信 65

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、牡蠣ツアー主催者の平野恭子さんです。

夢大使
平野 恭子さん
(東京都世田谷区)

「伝え、繋ぐ」

私個人としては一月に、ある支援団体の協力を得て、佐良スタジオの佐藤信一さんに撮っていただいた、本浜の漁師チーム「あつべとつべ沖の須賀」の作業風景の写真と私の書道の作品を、東京四谷のギャラリーで展示し、南三陸で作られたものを販売する機会を得ました。私の作品の販売代金は志津川漁協に寄付させていただきます。

また期間中に父に上京してもらい、その中で漁師として

の思いを話す場を設けたのですが、集まった多くの方が、被災した人の話を直接聞くのは初めてとのことで、本当に熱心に耳を傾けてくださり、話し終わった後も何人もの方が質問にいらつしゃいました。

その一方で、震災前の実家の店の写真と、基礎だけになった同じ場所の写真と比較したものも展示したところ、それを見た方から「こんな風に再建したんですね!」と震災前の写真を指さしながら言われ、南三陸にいと当たり前の大変な状況が、報道に接するだけだと伝わりにくいのだ、と実感した瞬間もありました。

私は東京にいる身として、また震災前の故郷を紹介してきた身として、これからもできるだけ長く関心を持ち続けようために、一人でも多くの方に、南三陸で、そして東北で起こったことを知ってもらいたいと思っています。